

令和4年度 第10回市長と能ん美りカフェトーク

市民で考えるまちづくり会議との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和5年3月27日（月）19時～

場 所 能美市役所 市民ホール

参加人数 10人

1) 市長 挨拶

・今日はこういう機会をいただきましてありがとうございます。
・第10回目という記念すべき回。今日はできるだけ皆さんにたくさんの情報をお伝えしたいと思いますので、本当にのんびりといろんな話をさせていただければと思います。

2) 参加者代表 挨拶

・基本構想には、「市民が躍動し、地域が輝く能き美しきまちづくり」を目指し、市民と行政が心を通じ合い、豊かな自然環境と共生しながら協働してまちづくりをするという風にならうと、すばらしいことだと思う。
・一昨年6月に辰口で宅地開発という記事が新聞に掲載され、何か唐突な感じを受けたが、市長はきっといろんなことを考えられて発表されたと思った。その後、詳細な情報が見えないまま、我々にとって情報が十分に届いていない印象を持ちながら過ごしている。
・宅地開発の主な目的は移住定住促進、陶芸村へのアクセス向上のための道路建設と新聞では報じられておりましたが、市長の心の中には、それだけではない深い意味も、あるいは夢もおありだと拝察している。
・今日は意見を言わせていただき、それに対して市長さんのお考えを伺えればと思っています。参考にさせていただければ非常にありがたい。キーワードは豊かな自然、すばらしい食材、それから温かい市民、子育て支援、それから移住定住と思います。

3) カフェトーク

【参加者B】 私はリアルな子育て世代としての意見をお伝えさせていただきます。

移住定住セミナーなどでどんな方が来られるかと言われたら、都心部から今の能美市に自然を求めて来られたり、子育て環境の充実をみんな感じていらっしやって、能美市にち

よっと興味があるという方が多いです。子育ての支援施策とかも伝えていて、そんな市民がよりよくというふうに行動していくいわゆる市民力が高いのが能美市の良さなので、それが財産かなと思っています。

特に若い世代に能美市愛が高いというデータを見ました。若い人がもう一回ここに帰ってきたい、住み続けたいと思えるような能美市、素晴らしいなというふうに、移住者から見ても、いいところなんだなというふうに感じています。それが能美市の豊かさだと思うんですけど、その中で今あるものを大事にするということや、新しく環境を整えていくのであれば、整備された公園はたくさんあるので、今ある自然をもう少し観察したりとか、貴重な動物とか植物を体験できる、学び型の公園があればいいのかなと思うんですけど、私の子どもも伸び伸びしていますので、そういう体感、体験できるような施設ができればいいと考えています。

家の近所なんですけど、九谷焼があつて、伝統工芸、能美市の世界に誇る伝統工芸の美術館と、そして自然のことが学べる文化施設があるというところも、それを併せてPRできたら、子育て世代にとってもすごい魅力になるんじゃないかと感じています。

結局、そういった子どもの五感を使って感じるということが生きる力につながっていくし、ひいては能美市の財産になっていく市民力というところに、つながっていくのかなと感じています。そういったものが実現できるものであってほしいと心にとめています。

【参加者C】 私も子育てしている父親として、いろいろ子どもと話している中で疑問に思ったり、説明をしてあげたいなというところをお話しさせていただきます。

県外に実家がありまして、小松市の会社に就職したときに石川県のどこに住もうかなと家を探していて、自然がとても豊かで子育てする環境が整っているかなと住まわせていただいております。

環境自体もきれいですし、田舎は田舎なのでしょうけど、とてもキャンプ場のように子どもたちも伸び伸びと遊んだりできる環境は気に入っています。近所の用水路にも田んぼの水、夏になると、蛍もすごく飛び回っていて、散策をしたり、夕涼みしながら蛍を見たりということは子どもたちも楽しみにしています。

その中で、子どもたちも新聞を見て、開発する、宅地になるよというところだけ話が出たので、この自然、山とかどうなるのかなと私にも聞いてきて、なかなか答えられない状況になっておりまして、できるだけ子どもに対して、能美市はこういう考え持っているよ

ということを説明してあげたいと思っております。

また、昨年の8月の大雨のとき、1か所、宅地開発しようとしている山のところで土砂崩れの様になったところがあるんですが、その近くが一部膝ぐらい水がついたんです。土砂崩れのあった辺りの森がなくなると、どうなるのかと心配しています。

今の家の環境をできるだけ守った形で、子どもたちと同じように環境を楽しんで過ごしたいと思っておりますので、子どもたちと安心して新しい開発を見守っていけるよう、お聞きできればと思っております。

【参加者D】 家の周りでの活動が本当に好きで楽しいです。能美の魅力は自然だと考えています。例えば、家の周りに木が多いし、近所にきれいな森が見える。と言いながらも、実は頭の中ですぐなくなるかもしれないと考えていて、不安です。

二つ目は、山に海という感じで和光台に宅地が多い。そこにずっと前準備して、まだ家が建っていないところが多い。山を壊して同じ状況だったら本当にもったいないと思います。だから、まずその既存の土地をちゃんと開発してから、必要なら山の開発がよいと思います。

【井出市長】 皆さん一番気になさっているのは、金沢大学の跡地の開発がどうなっていくんだろうか、ということだろうと思います。

なぜあそこを開発ということになったのか、能美市というのは今企業誘致が大変好調で、今後、約1,000名に新しい働く場所が生まれる。そういった人材を確保していくことが大事なのと、そういった1,000名の皆さんにできたら能美市に住んでもらいたいという思いがあります。

自治体の勢いを測るときに一番分かりやすいのは、人口が増えることだと思っています。

人口を増やすというのは2つ要素があります。1つは社会増、もう一つは自然増です。引っ越された人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。亡くなられた人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増になる。この自然増と社会増にどう取り組んでいくかを考えたときに、具体的な手段として企業誘致や宅地の造成ということがあるわけです。

市内で色々な場所の候補がありますが、やはり人が住む場所というのはある程度の利便性、それから、周囲に魅力的な施設がないとなかなかその場所に住んでもらえない。もう一つは道路のアクセス。そういったことから、あの場所が適地だと考えたわけです。

あの場所は、加賀産業開発道路に隣接をしている。周囲には動物園があったり、丘陵公園もあったり、ドッグランがあったり、九谷焼の美術館等がある。それから、ある程度保育園や小学校、中学校にも近い。プラス能美東西連絡道路、これを加賀産業開発道路に接続する必要があり、その場所はどこが良いかということも踏まえて、あの場所が適地だと提案をさせていただきました。

気になるのは、どんな開発になるのか、今回の開発の予定地は、約20ヘクタールが対象で、実際に開発していくのは半分のエリア。だから、近隣の皆さんにとってはあまりロケーションは変わらないと思います。

【参加者A】 開発予定地は、星が岡牧場の領域を除いて、その北側ですかね。北側と東側。

【井出市長】 そうですね。

【参加者E】 道路はどういうふうに通るのか。

【井出市長】 今後検討していきます。

能美東西連絡道路をどのように繋げていくかなんです。加賀産というのはアップダウンしているので、中途半端なところに交差点を設けると事故になる可能性がある。どの様に接続していくは今から検討していきます。

宅地にする際には、宅地だけを建てるわけではなく、そこに来ていただいた人に買物もしていただかないといけない、まちとして住んでもらうのに住みやすい場所にしていくということもありますので、その辺りは今後考えていきます。

我々とする、今こういう土地がありますが、まさに自然を守りながら、そしてここで住みたいと思ってもらえるような、そんなエリアにしていく予定です。

【参加者C】 山自体はもうなくなるんですか。

【井出市長】 そうですね。どれぐらい削るかは検討していきます。

【参加者E】 金沢大学の敷地部分は、施設の所有地ということですか。

【井出市長】 そうです。なので、その部分は金沢大学の敷地なので触らないです。

それから、先ほど仰られた自然を大事に、自然と共有できるという話は、今は国造エリアをそういったエリアにリニューアルをしていきます。フィールドアスレチックができる施設も、和気の池の傍にできました。あの辺り帯の点ではなく面としてそんな場所に変えていきます。海側では翠ヶ丘の公園も今きれいに整備をしていきます。

拠点となる施設は私は能美ふるさとミュージアムだと思っていて、悠久の歴史と能美市の自然を紹介しながら、そこで知り得たことを実際に現場に行ってもらい体験してもらおう、そういった能美ふるさとミュージアムは窓口。あそこは能美市の2つの玄関口と言っているんです。一つは能美市の歴史の玄関口、もう一つは現在の能美市の玄関口として能美ふるさとミュージアムを活用していきたいと考えています。

【参加者E】 松が岡3丁目に自然ふれあい公園というものがあるんですが、ほとんど人けがなく。面白い公園なんですけど、ちょっと利用者が少ないのがもったいないと思っています。私がいいなと思ったのは、その開発される予定地と近いと思ったんです。市長が先ほどおっしゃった場所ということ私は知らなかったの、松が丘の近くも開発に入ると思っていたんです。開発するとしたら、自然ふれあい公園とリンクさせて一緒に整備してもらったら、遊歩道をつけたりとか。自然公園の拡張みたいなものを図れば、ふれあい自然公園も今以上に利用されるし、開発されるところにも人の足が入りやすいと思って、いいものができるんじゃないかと想像しました。

自然公園と星が岡に行く間の道路が見通しが悪くて危険なんです。強い風が吹いたりすると木が道に倒れたり、電線にかかっていることもあるので、少し道幅を広げて遊歩道を造ったり、自転車の道路を造ったり、今おっしゃった遺観のトレイルランもそうなんですけど、自転車で行く方も多いので、自転車道路が能美市にあれば、石川県には少ないのでかなり注目されるんじゃないかと考えました。

【井出市長】 一遍現場を見て検討します。

【参加者E】 いい道なんですけど、本当に細くて人けがないなというイメージです。もし遊歩道があれば、子どもが安心して落ち葉とかドングリとかを拾ったり、道端の虫とか花を観察できるようになるので、現場を体感することに繋がると思っています。

九谷が近くにあつて、九谷のほうではショッピングとかカフェを楽しんでもらえる。伝統工芸を見て、エンターテインメントじゃないけど、そういう要素があるところ。ここはそういう自然のもので楽しむことができる場所にすれば、なおさら住みたいと思う人が多いんじゃないかなと。今のままというよりも、もう少し今ある自然を、五感を使って楽しめる自然公園というふうにしたらいんじゃないかと思えます。

ビオトープを防災に配慮しながら、より自然の状態に近い形にして、人工的に整備をするんですけど、動植物の環境を残すために水際の斜面をコンクリートでただ安全に整備す

るというのではなくて、土とか石とか石垣を築くとか、そういう見た目もナチュラルに残して、草や土を踏んで歩く感覚というか、人のそういう感覚って結構恋しい時代になってきてしまったと思うんです。犬とかペットもそういうところを歩くっていうのはなかなか喜ぶんで、環境を保持するというのは、すごく能美市いいまちだなと思ってもらえる大きな要素だと思います。

【井出市長】 なるほど。

【参加者E】 宅地開発という言葉のイメージに、多分私が思っている以上にここまで関わってきた皆さんが心配されているんです。壊されてしまうというイメージでいるのが、せっかく能美市の自然が好きな人たちがいる中で、そういう開発をするのが私だったらすごく悔しいので、そうじゃないって。自然を壊すという開発のイメージをなくせるチャンスということも考えて、宅地ももちろん造って、人口を増やす。それはもちろん私もすごく応援したくて、人もそうんだけど自然もしっかり守って、さらにその自然をよくするよという開発であれば、全国でもお手本になりそうな気が私はしています。そういうポテンシャルのある土地、能美市だと思っています。

【井出市長】 分かりました。

【参加者E】 私も町会の皆さんの声を聞いて、皆さん本当に定住したいという思いがすごく強い。ここに来て本当によかったという声を感じるんですけど、もしそういう開発になったらなおさら安心して定住できるし、例えば近くにそのような開発地が出来上がったら、松が岡に空き家ができたとしてもすぐにそこに入る人が増えるいいローテーションができるんじゃないかと思って、人口が減少して過疎化する松が岡じゃなくなる安心感も生まれるんじゃないかという期待もあります。

芝生があって、木が生えていて、自由に人が自分の考えで自由に使える公園、日本人にとっては公園と呼べるのかなという公園なんですけれど、そういう場所が身近にあると気持ちを癒してくれる場所になるんじゃないかと思っています。

【井出市長】 実はこのエリアの開発を考えると、専門の自然調査を入れたんです。本来であれば調査をしなくて開発できる場所なんですけど、自然を大切にしたいという思いから調査機関を入れて、どんな状態なのかしっかり把握をしながら開発していくつもりです。

確かにおっしゃるとおりで、開発する以外のところも、道路が通ったりする場合がある

ので、そのときの景観もしっかり守れるよう、いろいろな参考事例も調べながら取り組んでいきます。

【参加者E】 ありがとうございます。

【参加者A】 私は毎日のように散歩道にしていまして、どんな生き物が開発予定地にいるかかなり詳しく知っているつもりです。ミゾゴイという貴重な絶滅危惧Ⅱ種がこの森に来ます。それから、オオタカもこの森に来ます。

最初に何も情報がないときにここを宅地にしたら困るな、こんなところは宅地にはならないだろうと個人的には思いました。

2つ理由があるんです。一つ目は、開発予定地の水路辺りに非常に貴重な水の生き物がいるということ。二つ目は、ほとんど湿地だということです。一番安心したのは、予定地の水源を触らなければ大きく自然の動物にダメージを与えることは少ない、市長からはっきりと宅地開発される場所を聞き、非常に安心しました。

水辺、湿地があるから、生かした形で新たなこの水をうまく利用して流しながら、虫もすめるような水路も整備できるでしょうし、自然を楽しむことができるような開発にもできるんじゃないかと思います。

ただ更地にするのはもったいないから、多様性が残った形の宅地になったらいいなと思います。緩衝林だとかうまく造りながら水辺を生かした、他にはまねできないような宅地開発にしていただけると非常にありがたいと思っています。

こういうところを子どもが遊びながら、探検をしたり自分が本当の意味で学べる。トレーニングとして知識を受け入れるだけじゃなくて、自分で活動しながら遊びながら、遊びの中でいろんなものを身につけていく。そういうことができるような施設あるいは環境を持った宅地開発をしていただければ非常にありがたいと思います。

【井出市長】 自然を大切にするというのはやはり、壊してしまうと戻すのが大変なので。いかに維持をさせていくかということだろうと思います。

もちろん今はここが中心になっていますけど、能美市にはほかにもたくさん守っていないといけないところがありまして、実は8月4日の大雨の被害で遣水観音の前のところは整備ができたんですけど、蟹淵まではできていないんです。

【参加者E】 蟹淵にこの間行ったら、行き止まり、通行止め。凄くひどい状況でした。

【井出市長】 今までの道は恐らく使えないので、ほかの道を造らないといけないとか、鍋谷と和佐谷を結んでいる山道もまだ復旧できてない。何をするにしても大きな費用がかかるので、自然を守っていく、それから維持をしていく。能美市であんなに大きな雨が降るとは思ってもいなかったもので、自然災害に対してどう守っていくかということも行っていないといけない。こうやって今あるものを守っていくことも行っていないといけないんですけれども、自然災害に対してどう市民の生命と財産を守っていくかが大変重要なテーマで、そこにはどうしても費用がかかる。そうすると優先順位をつけて一つ一つ取り組んでいくことにご理解をいただければと思います。

【参加者A】 分かりました。

【参加者F】 私は水田を歩いています。土の上は優しいです。土の道は足には非常によいので、開発予定地に造っていただけるとうれしいなと思っています。

災害時逃げる時に、みんな車で逃げようとはしますが、信号が電気がないから消えている。例えばロータリーみたいな交差点の形態にしたら、みんな気をつけながら移動ができるので、非常に災害のときにも有効だと思います。4WAYストップと外国ではいうんですが、四方から来た車はみんな止まって周りを見渡して、来た順番に行き交いをする。そうすると信号も要らないし電気代もかからない。標識を四方につけておくだけでずっと動くことができる。能美市にも設置の検討をよろしくお願いいたします。

【井出市長】 承りました。

【参加者G】 開発予定地の近くで田んぼもしています。開発や人が手を加えるというのは全然逆がいいことだと思っています。ほったらかしよりも、田んぼとかをしていたほうが、水を求めて生き物が集まってきたりとか、そういうこともあるので、その辺のちょうどよさというか、そういったところは今後開発を進めていく中で意識して進めていっていただけるとすごいうれしいなと思います。

あと、去年の暮れぐらいに一回開発予定地を歩いてそこにいる動物を専門家の先生に教えてもらいました。4年間だけ大学で外に出ましたがずっと能美市に住んでいて、初めてこの道を歩きました。いろいろ説明してもらいながら、土地に足を踏み入れた時に、ずっと住んでいながら全然知らなかったことが、まだまだここだけじゃなくてたくさんあるんだろうなと思いました。先生の話聞きながら歩いて見ると、ただの散歩よりも有意義

な時間になりました。今日はカフェトークですけど、もし機会があれば、ウォーキングトークみたいな感じで、ぜひ市長も一緒に歩く機会があればいいなと思います。

人によってちょうどいい田舎感で様々だと思います。そういったところの、先ほどどれだけ削るかはまだ決まっていないとおっしゃってましたが、市民といろいろと直にお話をさせていただきながら、現地に足をぜひ運んでいただいて、ご検討いただければうれしいなと思います。

【井出市長】 分かりました。ありがとうございます。

【参加者H】 今、松が岡に住んで秋で9年です。

去年の8月の洪水でまた強く思ったんですが、能美市は手取川と梯川に挟まれていて、直接海に行く川がない。手取川と梯川がいっぱいになって、福島の団地で床下浸水が起こった。あと、岩内で床下浸水が起こった。徳山の道路が冠水した。

だから今、手取川と梯川がいっぱいになったら、能美市が極端に言うと湖になる。この間の8月4日の大雨が多分2日続いたら、すごいことになっていたと思うんです。市長には、100年後50年後の能美市を考えてほしいというのが私の希望です。

森林あるのと道路とか宅地があるのじゃ保水能力が凄く違います。能美市、小松市にかけてそういう森林がなくなったことが悪いとか、団地ができたから悪いとかじゃなくて、能美市ではかなり広い範囲で保水能力がなくなっている。それを考えて、地球規模の温暖化が市にどう影響を及ぼすかというのを考えていただきたい。そういう部署とかそういう人を市の中で配置していただきたいなど。これが私の希望です。

【井出市長】 今のお話からいくと、水害ということに対しては、国が言っているのは100年に一度、こんな雨が降ったらこんな状態になるというのは出ていて、それを今、ハザードマップにして皆さんのところに配布をしているという状況なんですね。

8月4日の大雨というのは、時間当たり86ミリ。これ過去に経験したことがない、50年に一度の大雨だと言われていて、現在はその大雨がもし降っても同じような災害にならないように河川の整備ですとか、いろんなことをやろうとしています。

それで、50年後、100年後という話ですけど、能美市は2月28日、議会の開会日にカーボンニュートラル宣言をしました。それは2030年に2013年のカーボン排出量に対して半減します、2050年にはゼロにしますと言っていて、これは実は大変難しい目標値なんです。だから、車もその当時には恐らくガソリン車じゃなくて、ほとんどEV車になっているだと

か、工場から排出するCO₂もどうやって削減していくかというようなことがすごく重要な難しい点がありまして、それで来年度からどの様にやっていくかという会議を立ち上げて取り組んでいきます。こんなことをしたらいいんじゃないかとか、こんな取り組みがあると効果があるんじゃないかとあれば教えていただければと思います。

【参加者Ⅰ】 市長のお話をいろいろ聞いていても、自然を一度壊したらもう戻らない、だから宅地にするにしても慎重に計画していくという言葉を実際聞いたので、今までその辺の思っていたところも少し安心しました。

それで、先ほど1,000人の雇用が生まれるので、宅地もその人たちに住んでもらいたい。そのお話も十分分かるんですが、私は松が岡に来て今年で22年になります。金沢市から移住してきました。来た当時は往復3時間の通勤を優先するよりも、自然の多い辰口に住みたいというのを天秤にかけて、通勤時間が却下する理由にはならなかったです。

能美市の物件を見に来て、ああ、ここだったら静かに住んでいける、環境もいい、空港も近い、産業道路がある、先端大もある、文化的な施設も多い。すごく将来性があると思って越してきたんです。

必ずしもここに職場がある人たちだけが住むということではなくて、どんなところからでもここに住みたいという人がいるということを市長に知っていただきたい。

それと、切り崩すにしても、自然を壊さずに人間が便利に住んでいくということは100%は避けられませんけれど、開発にしても必要最小限にとどめて、自然のものを生かしながら。

姜の参加者もほとんど移住してきた人ばかりなので、今、私たちが能美市に住んで満足している。私たちの市民の心配になるような開発などをなるべく気持ちに寄り添って進めてくれたらありがたいなと、一市民として感じています。

【井出市長】 この1,000人をどうやって確保していくかという話なんですけど、地元の企業から移ってしまうと、企業誘致をしている効果が半減してしまう。ターゲットは大都市圏。大都市圏からいかに移住してきてもらうかということをターゲットにしているんです。

今、南加賀全体的に企業誘致が好調で、既存の企業さんも増床をしているので、もう完全に奪い合いになっている。そうではなくて、まさに地方創生をどうやってやっていくか。大都市圏に住んでいらっしゃる人たちに能美市の魅力を発信して、いかに能美市に住んでもらうかということを今やろうとしている中の、この宅地だという位置づけを理解してい

ただきたいという思いです。

【参加者I】 空き家とか中古物件を活用して、移住者に提供するという。宅地の新築じゃなくても、松が岡でも中古物件買われて住まわれている若い方がたくさんいます。もう世代が代わっていらっしゃるの、そういうところも利用していただければ。

【井出市長】 今、能美市に約780件の空き家がありますが、実際に空き家バンクに登録している数は本当に少ないです。空き家の数が全部住める状況ではないんですね。見た目にはたくさんありますけれど、そこを所有していきたいという方もたくさんいらっしゃって、ほかの皆さんに使っていただいてもいいよというところは能美市としても把握をして、提案はしています。もしまたそんなところがあれば教えていただければと思います。

【参加者C】 開発される区域では、全部で何戸くらいの予定ですか。

【井出市長】 まだ全然決まっていないです。先ほど申し上げたように、店舗も造らなければならぬかと思っている。家だけではなくて。まちを開発していきますから。まだ何区画かは、考えてないです。

【参加者C】 開発予定地の近くの住宅地に住んでいます。その住宅地は宅地造成してから早めに全部埋まって、そこに定住しています。私と同じぐらいの子育て世代、10年ぐらい前だったんですけど、子どもが生まれたてぐらいの方と、もう少し上のちょっとリタイアしてという人がいて、大体の人の感覚は、ちょうどいい田舎感、山に囲まれている、むしろ埋まった環境が非常に魅力的だと言っている人が大多数。多分松が岡のほうも山に囲まれて、自然に囲まれた感じがよくて、辰口地区の定住している人は大体県外とか市外から来ている人が多かったんですけど、自然環境が非常にいいところ。結構住宅が固まっているところに比べると、子どもを育てるときに環境が非常によかったです。市長も自然を全部崩すわけじゃなくて、緩衝林とかを設けてというお話がありましたので、県内のほかの地区だったり、新しい企業誘致の人がどこを選ぶか、能美市なのか、金沢なのか、いろいろ魅力的なところがあって選ぶときに、僕が一番勝負できると思うのは自然がきれいというところ、色々なところでそんなみんなの意見を聞きます。そこを大事にしてほしいと思います。

【参加者E】 新聞の報道や議会で質問される内容でしか自分たちは情報を得ることができなくて、いろいろ問合せもしたんですけど、今日みたいに市長の口からダイレクトに、

今分かる限りの情報がここまでで、私たちはこういうふうにしたいと考えているんだというプランを、目を見ながら言っただけで、大半の市民が安心するというか、信頼を寄せると私は感じました。

【参加者A】 情報も何もなく、憶測で賛成だ、反対だと言っても始まらない。まずは自分の目と耳できちんと、相手の言うことも聞いた上で考えをちゃんとするべきだと。それが市民の務めだと私は言ってきました。市長から直接お話伺えてよかった、私も今日、市長が開発予定地を地図のこの部分だと言っていたことが、すごく大きかったと思います。どういった内容かある程度把握できればその対応の仕方もあるわけです。これからもできる限り我々も協力したいと思っています。情報をオープンに、差し支えない情報をどんどん流していただければと思います。

【井出市長】 タウンミーティングや能ん美りカフェトークというのはこういう機会のためにやっています。また何か疑問や、こんなことを言いたいということがあればいつでも声をかけてください。

4) 閉会